



防災士  
防火・防災管理者  
稻垣 康弘

## "大地震"発生時に「火災」が起こらないための対策

大地震が起きた時の恐い二次災害の一つに、同時多発的に発生する「地震火災」があります。

そして、過去「阪神淡路大震災」や「東日本大震災」で、発生原因が特定できた地震火災のうち **6割強** が「通電火災」によるものでした。

今回の Advance 防災かわらばんは、大地震が発生した際の「通電火災による二次災害を最小限に防ぐための対策」をご案内します。



## 「通電火災が起こる原因」

地震火災が発生する最も多い原因の「通電火災」とは、地震直後に停電が発生し、数日後に電力が復旧した際、地震で倒れた電気機器や損傷した配線に電気が流れることで発生する火災のことです。また通電火災は、地震発生から数時間から数日後に発生する火災のことをいいます。

※ 阪神淡路大震災や東日本大震災の火災の6割強が通電火災によるものでした。



## 「通電火災の恐さ」

通電火災の恐いところは、「地震と時間差で発生するため避難後の無人の家屋で発生する」「同時に複数の場所で発生する」「道路の崩壊や建物の倒壊により消火活動が遅延する」「水道管の破損により消火活動に必要な水が確保できない」などから大規模火災に発展する可能性が高いことです。なので通電火災が発生しないための対策を講じることは大変重要です。



## 「通電火災を防ぐ有効な対応」

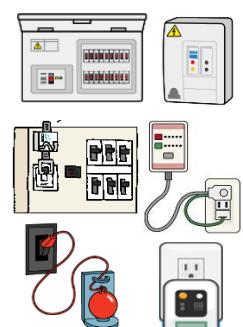
通電火災を防ぐためには、地震発生後に「分電盤のブレーカーをオフにする」「電気機器のプラグを抜いてから避難する」ことが最も有効な対応ですが、大地震発生時は、屋外に脱出することで精いっぱいで余裕がなかつたり、外出中でブレーカーをオフにできない場合もあります。そんな時に役に立つのが「感震ブレーカー」です。



## 「感震ブレーカーの必要性」

感震ブレーカーとは、地震による大きな揺れ(震度5強相当以上)を検知し、ブレーカーを自動的に遮断してくれる装置です。誰でも簡単に設置出来る「簡易タイプ」のものから、コンセントに差し込む「コンセントタイプ」、また、工事を伴う「感震リレータイプ」や「分電盤タイプ」があります。

価格は、簡易タイプの3,000円程度のものから工事費含め5~8万円くらいのものまであります。また、「家全体の電気を遮断するタイプ」から「家電単位で遮断するタイプ」、「揺れの感知と同時に電気を遮断するタイプ」や「感知後3~5分後に電気を遮断する遮断遅延機能付きのタイプ」もあります。以下感震ブレーカーの違いを紹介します。



種類	分電盤内蔵タイプ	分電盤後付けタイプ	コンセントタイプ	簡易タイプ
価格	約5~8万円	約2~4万円	約5,000円~1.5万円	約3,000円~5000円

## 「感震ブレーカーの遮断遅延機能」

遮断遅延機能とは、地震の揺れを検知した後、即座にブレーカーを遮断するのではなく、数分間(3~5分間)待ってから遮断する機能です。この機能は、「地震発生直後に真っ暗になるのを避け一定時間照明を確保できるため、避難時の「状況判断」や「避難経路の確保」に役立ちます。

